WISS 論文タイトル

WISS Title of Paper, in English

小野 妹子　　蘇我 入鹿　　John Sample *

Summary. 概要は和文 600 文字程度か英文 200 語程度のどちらかでお書き下さい．本文の言語に関わらず，著者が選択できます．概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル 概要サンプル

1　はじめに

このスタイルクラスは WISS2000 まで用いられてきた LaTeX2.0.9 用スタイルシートを元に，LaTeX 2_ε で投稿論文執筆を行う著者の便宜のために 2001 年に作成された．2002 年には予稿集サイズが B5 版から A4 版に改められたのに伴い，WISS 独自の新しいフォーマットが定められた．2005 年には参考文献のための文献スタイルが追加された．2010 年には末尾の「未来ビジョン」欄が追加された．さらに，2011 年には参考文献の後に「アピールチャート」が追加された．

著者各位においては，WISS のホームページ [1] および以下の注意を熟読して効率的な論文執筆をされるよう望む．

2　論文執筆について

2.1　全般的な注意事項

このスタイルクラスを利用するには，`wiss.cls`, `wissbase11.cls`, `jwiss.bst` をコンパイラが参照できるパスに置く．通常は TeX 文書ファイルと同じディレクトリに置けば自動的に参照される．また TeX 文書の先頭にある `\documentclass` で `wiss` を指定する．全体としては次のようになる．

```
\documentclass[twoside]{wiss}
.....
\journalhead{...}
\begin{document}
\title{...}
\etitle{...}
\author{...
    \affil{...}}
\begin{abstract}
.....
\end{abstract}
\maketitle
\section{...}
本文...

\bibliographystyle{jwiss}
\bibliography{...}

\begin{figure*}[!b]
未来ビジョン関連の latex 記述
\end{figure*}
```

論文の文体は「だ」「である」調，句読点は「,」「.」を強く推奨する．図のレイアウトなどの特別な場合を除いて本文は 2 段組とする．カメラレディ原稿は **A4 サイズ，白黒で pdf 出力**し，上下左右のマージンは厳守しなければならない．また，ページ数は必ず規定のページ数でなければならない．

Overfull (規定の枠内からはみ出して文字を書くこと) してはならない．本文中や参考文献で長い URL などを書き入れると，`http://www.sample.url.xx.yyy/`

Copyright is held by the author(s).

* Imoko Onono, 堀口大学大学院 理工学研究科 計算機科学専攻, Iruka Sogano and John Sample, ウイス電機コンピュータサイエンス研究所

のように Overfull が発生することがある．必ず仕上がりを確認し，このようなことが起きないように文章を調整する．はみ出した部分については編集者において削除することがある．

2.2 表題，著者名，概要

和文タイトルを`\title{}`に書く．英文タイトルを`\etitle{}` と`\journalhead{}`の **両方に** 書く．`\journalhead{}`に書かれた英文タイトルは 3 ページ目以降の奇数ページのヘッダ（ハシラ）として現れる．

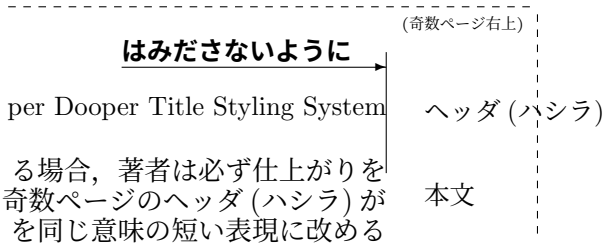

図 1. ヘッダの例

カメラレディ原稿を作成する場合，著者は必ず仕上がりを確認する．3 ページ以上の原稿については，3 ページ目以降の奇数ページのヘッダ (ハシラ) がページ幅を越えないようにする (図 1)．越えそうな場合には著者において`\journalhead{}`中に書く英文タイトルを同じ意味の短い表現に改めること．おおまかな目安は 15 ワード程度である．ヘッダ (ハシラ) は途中で改行してはならない．また，`\journalhead{}`の中を空にしてはならない．なお，ページ番号はページ下部中央に書き込まれる．

和文による著者名は`\author{}`の中にこの論文例のように書く．著者の英文綴りと和文所属は，この論文例に倣い`\author{}`の中の`\affil{}`に **一括して** 書く．アブストラクト（論文概要）は，2007 年からは`\begin{abstract}`と`\end{abstract}`の間に，英文 200 ワード程度，あるいは 600 文字程度の和文のいずれかで書くように変更となったので注意されたい．

2.3 本文

`\section{}`，`\subsection{}`など，スタイルクラスで用意されている章立てを用いながら，通常の LaTeX 2_ε 文書執筆の要領で書く．

図表は，査読用投稿の場合には査読者が十分読みとれるよう配慮する．カメラレディ原稿は提出したものがそのまま印刷，出版されるので，十分な画質があるように著者において出力すること．なお，写真などもすべて原稿中に組み込んで出力すること．

2.4 謝辞，参考文献

謝辞は必要な場合にだけ書く．

参考文献は JBibTeX を用いて文献データベースから自動生成することを強く推奨する．文献スタイルは `jwiss` を使う．手書きで作成する場合には，文末の例のように著者名，論文名，所収冊子名 (英文の場合には斜体)，ページ番号，発行年の順で書く．英文で著者名を書く場合には，名 (first name) のイニシャル，姓 (last name) の順に書く．共著者が多い場合には「et al.」で省略してもよい．なお，参考文献に URL を指定する場合には，そのページが存在していることを投稿前に必ずもう一度確認すること．本論文集は出版物になるので，ニュース記事のように短い期間で URL が変更されたりページ自体が消滅する恐れのある Web ページは参考文献として好ましくない．

2.5 アピールチャート

WISS 2011 では，すべての登壇発表（査読あり）の論文に対して，アピールチャートという図の掲載を義務づけている．デモンストレーション・ポスター発表の場合には，掲載は自由とする．アピールチャートは，WISS2011 用のグラフ生成サイト `http://daisukesakamoto.jp/wiss/` を用いて，png ファイルを生成する．その後，何らかのソフトウェアで eps ファイルに変換して `chart.eps` のファイル名で保存すると，`sample.tex` 末尾の定義で取り込まれる．

2.6 未来ビジョン

WISS 2010 から，すべての登壇発表（査読あり）の論文に対して，未来ビジョンの欄を，最終ページ末尾に半ページで掲載することを義務づけている．デモンストレーション・ポスター発表の場合には，本欄を削除しても構わない (執筆しても構わないが，その場合 2 ページでは短いので，原稿ページ数を上限 3 ページまで認める)．未来ビジョンは，読者が論文本体を既に読んでいることを前提に書くが，論文本体との重複が部分的にあることは問題ない．未来ビジョンの枠のテンプレートはスタイルクラス中ではなく，`sample.tex` の末尾に定義されている．

3 論文作成の例

`\section{論文作成の例}`と書くと上のように表示される．

3.1 図表挿入の例

`\subsection{図表挿入の例}`と書くと上のように表示される．

3.1.1 表の例

`\subsubsection{表の例}`と書くと上のように表示される．表 1 は表の例である．

表 1. 食欲を満たす方法と特徴.

	値段	スピード
高級料亭	高い	遅い
ファミリーレストラン	中ぐらい	中ぐらい
ファーストフード	安い	早い

図 2. 図面の例

図の例

`\subsubsection*{図の例}`と書くと上のように表示される．アスタリスク (*) をつけたことにより番号が表示されない．図 2 は論文中に図面を挿入した例である．

図 3 は，2 段抜きの図の例である．2 段抜きの図を挿入するときには，`\begin{figure}`の代わりに`\begin{figure*}`とし，`\end{figure*}`で終わるようにすればよい．同様に `table` についても`*`をつけることで 2 段抜きにできる．

ただし 2 段抜きの図や表は，LaTeX によって別のページに移動して張り付けられてしまうことが多いので注意が必要である．

カメラレディ原稿を作成する場合，著者は必ず仕上がりを確認し，図が鮮明に出力されることを確認する．特に，次の 2 点に留意すること．

- 画面キャプチャした画像を使って図を作る際，非可逆圧縮を使わないこと．画面キャプチャした画像をファイルに保存する場合には，保存形式として非圧縮形式 (BMP 等) または可逆圧縮形式 (GIF，PNG 等) を用いる．
- 図に文字を使って注釈を書き込む場合，極力，アウトラインデータの文字を用いること．ビットマップデータの文字を用いた場合，文字の輪郭がギザギザに見える．

3.2 数式の例

`\subsection{数式の例}`と書くと上のように表示される．

式 (1) は数式の例である．

$$\sum_{n=1}^{N} n = \frac{1}{2}N(N+1) \tag{1}$$

4 まとめ

このサンプルは次の環境を用いて動作を確認した．

- UNIX 用の pLaTeX 2_ε(pTeX3.1.2)
- Windows 用の pLaTeX 2_ε(pTeX3.1.3)

本スタイルシートが著者諸氏の論文作成に役立つことを期待する．

謝辞

謝辞があればこの章に書く．特になければ「謝辞」の章はなくてもよい．

5 てすと

てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすとてすと

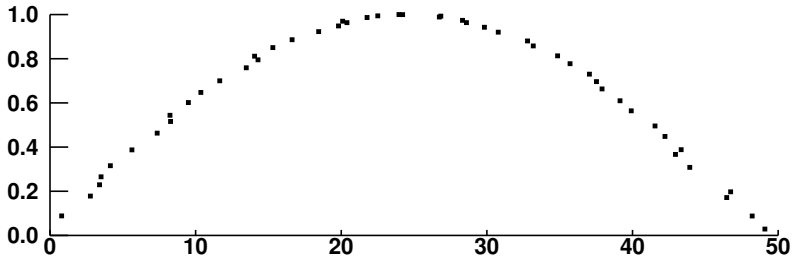

図 3. グラフの例

てすとてすとてすとてすとてすとてすと．てすとてすとてすとてすとてすとて